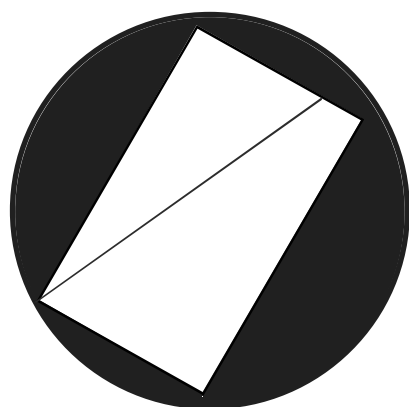


*A + J Report*

**Asia + Japan  
Research Center**

initial  
issue

**0**



ASIA-JAPAN RESEARCH CENTER  
KOKUSHIKAN UNIVERSITY

CONTENTS

センター代表 西原 春夫 .....ごあいさつ  
センター長 三浦 信行  
21世紀アジアをデザインする.....センター紹介  
シンポジウム“アジアの動向と日本”.....活動レポート  
イベントスケジュール、出版案内.....イ ン フ オ

---

ごあいさつ

---

学校法人 国士舘 理事長  
アジア・日本研究センター代表  
西原 春夫

21世紀は日本を含むアジア諸国が、アジアという一つのかたまりとして世界史に登場する初めての世紀です。そういう認識を基礎に、アジア諸国の相互理解を深めるという目的をもった「21世紀アジア学部」を本学はまず構想しました（認可申請中）。そしてその傍にあって、アジア共通の諸問題の解決を、学内外の力を結集して図ろうというのがこのセンターの意図です。この未来指向の壮大な目的に、ぜひご賛同をお願いいたします。

## ごあいさつ

国士舘大学 学長  
アジア・日本研究センター長  
三浦 信行

21世紀はアジアの時代と言われております。こうした趨勢をみると、わが国における、日本も含めたアジア地域に関する学術研究、企業活動の方向性、一般の日本人のアジア社会に対する関心のあり方について、いま一層の認識と進展が緊急の課題であることは言を待ちません。21世紀に最も重要な如上の課題を探求し、解決する方途を探り、日本社会と他のアジア地域との相互理解を促進することを目的として、本学はアジア・日本研究センターを平成12年10月に設立いたしました。開かれた研究センターとして、大学のみならずひろく社会との連携のもとに活動を続けてまいり所存でございます。各方面、各位のご理解とご支援を賜りたく伏してお願い申し上げます。

国士舘大学アジア・日本研究センターは21世紀アジアにかかわる学術的ならびに社会・経済的な課題を研究対象にとりあげ、問題解決の方途を探り、政策的提言まで視野に入れた活動を行おうとするものです。本研究センターは、研究調査にもとづくアップデートな総合的アジア情報をひろく社会に提言するとともに、日本を含めたアジア地域の相互理解の増進を目的に、セミナー、市民講座など社会的な啓蒙活動にも力を注ぐ予定です。

アジア・日本研究センター

# 21世紀アジアをデザインする

日本を含むアジア地域の総合的研究  
日本を含む今日のアジア地域の実態と構造をとらえ、ひろく政治・経済から文化まで、政策的提言にいたる総合的研究を行い、地域の相互理解を深める事業を促進する。

## ソフト・パワーの認識と研究

国士舘大学における教育研究活動及びわが国におけるアジア・日本研究の一層の発展に資することを目的とする。今日のアジア地域に生起する現象と趨勢を分野横断的に分析し、経済活動や政治動向の基盤に横たわる社会・文化的要因を明らかにする。こうしたソフト・パワーに関する研究なしに、もはや通商も地域関係もなしえない。

## 二一世紀アジア学部との連携

ネットワーク型のオープンな学部を目指す二一世紀アジア学部設置にむけて調査研究、情報収集を行う。設置後は、新学部と、国内外の営利・非営利の企業、団体、政府機関、一般社会を繋ぐ研究調査の基点として、フォーラム的機能を果たす。

## 大学と社会の結節点

教育研究と社会の接点なしに実践的な二一世紀のアジア研究はありえない。本研究センターは、大学と企業、非営利組織、自治体などを繋ぎ、問題志向的研究調査を行い、また市民講座など啓蒙活動を行う。

## 第2回シンポジウム “アジアの動向と日本”

A  
J  
活  
動  
レ  
ポ  
ー  
ト

昨年12月に開催した発足シンポジウムに引き続き、さる6月8日“アジアの動向と日本”と題する統一テーマのもと、シンポジウムが開催された。このシンポジウムは、(社)世界貿易センター(東京)、(社)先端技術産業調査会の後援を頂き、ウイークデーの開催にも関わらず、広く各界にわたる150余名の参加者のもと開催された。

冒頭、西原春夫・学校法人国士館理事長より主催者の挨拶が行われ、国士館大学が2002年4月に開設予定の“21世紀アジア学部”、さらにその付置研究期間として今回のシンポジウムを主宰した“アジア・日本研究センター”の紹介をされた。

また、統合の動きを展開しつつあるヨーロッパの現状と比較して、アジア、そして日本の置かれた現状と、アジアでも何らかのかたちでのアジア地域国家統合の形成が世界連邦の形成に向けた動きを刺激するのではないかとの見地から講演が行われた。また、その統合の「単位」となるのはやはりアジアでなくてはならず、アジアの共同体を造っていく中での日本の役割が強調された。

つづいて後援団体を代表して、豊島格(社)世界貿易センター会長よりの挨拶が行われた。アジアには、多様な人種、文化が混在しており、従来の日本のアジア研究の分野ではアジアに対する問題意識が欠けていたのではないかという疑問から、これからはアジアと日本の関係も重要だが、アジアの中の日本といった視点から研究を進めていくことが提案された。

パネルディスカッションに先立つ基調講演として、元サウジアラビア大使、前タイ大使の太田博・(株)三菱重工業顧問より、“21世紀のアジアと日本の歴史的使命”と題し、21世紀の東アジア情勢の展望と、その中での日本のあり方について講演が行われた。

まず、東アジアの特色としてアメリカの影響力が圧倒的な優位を占めており、近年そこに中国が台頭してきたことなどに触れ、さらにこういった多様性を超克した形での地域協力体制が注目されることとふれられた。

こういった情勢の中で日本の今後の対外政策のあり方として、対米関係は日米同盟の堅持が重要とされ、また対中関係では今以上に緊密な関係の構築こそが重要となることが論じられた。

また、地域協力体制の構築については、日本のイニシアチブの発揮が、アジア・日本という相互依存関係の深い両者にとってお互いにプラスになるであろうと纏めていただいた。

基調講演終了後、休憩を挟み、パネルディスカッションが行われた。ここでは、当副センター長の三浦 宏をコーディネーターとして、アジアの現状をふまえて、これからの日本のアジアに対する姿勢の在り方という共通視点からディスカッションが展開された。

まず、(株)FMジャパン会長兼社長の三好 正也 氏より、乱高経済で進展してきたアジア経済について、ここ数年の低調が問題となっていることに触れ、これが日本やアジアだけではなく世界経済にとって何を意味するのかという問題提起がなされた。

さらに欧州での通貨統合の動きと比べて、アジア発の通貨同盟の是非について論議が行われた。

次に、共同通信社編集委員の西倉一喜氏より、アジア、特に中国におけるアメリカの影響力の浸透は、一般の人々を介しての民主、自由といった思想の伝播が背景にあるという論調から、中国の自由化を中心軸にアメリカのアジアにおける影響力の強さが印象づけられた。

このようなアジアを巡る米中関係の中で、技術力・経済力で最先端を維持してこそ、日本はアジア諸国から認められるのではないかという論調であった。

最後に、北海道大学教授の梶原 景昭氏より、日本とアジアの距離について論じられた。現在、両者の関係はかなり緊密化しているが、今後これを促進するためには、文化を越えた複合的なコミュニケーション能力や手段の会得といった、社会の力を増すソフトパワーの構築が避けて通れないことが強調された。また、ソフトパワーを有する人材の育成のため、文化政策にも重点をおき、文化に裏打ちされた政治・経済を通じてのアジアとの交流が、あらたな日本=アジア関係を生み出す源泉ともなるのではないかと強調された。

パネラー各氏のプレゼンテーション終了後、会場からの質疑も含め活発なディスカッションが行われ、新緑の季節にふさわしい活気にあふれた会合となった。

## 日本のイニシアチブの発揮

## 社会の力を増すソフトパワーの構築

## I n f o r m a t i o n

## ◆ イベントスケジュール

活  
動  
予  
定

## 第3回シンポジウム“アジアの中の日本理解”

アジア・日本研究センター主宰の第3回目のシンポジウムとして、今回は“アジアの中の日本理解”と題して9月中下旬の開催を目途に企画中です。

詳細が決まり次第ご案内いたします。

## 第1回センター勉強会“日本企業とアジア社会”

アジア・日本研究センターでは、シンポジウムの他に、公開の勉強会を企画中です。その第1回は9月中を目途に、当センター教授 小牧 輝夫（前日本貿易振興会・アジア経済研究所 地域研究第1部研究主幹）を講師として、“日本企業とアジア社会”と題して勉強会を開催します。

こちらにも詳細が決まり次第ご案内いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

## “アジア21”シリーズ

国士舘大学では、“アジアの時代”といわれる21世紀を迎え、政治、経済、学問はいうに及ばず、ライフスタイルやワークスタイルなどあらゆる次元における新たなパラダイムの転換を見据え新学部“21世紀アジア学部”の開設を予定しています。それに先立ち、アジア・日本研究センター編集による<アジア21>シリーズの刊行を企画し、各界を代表するアジアとのかかわりの深い方々と、西原春夫当センター代表との対談をも交えながら2001年12月を目途に第1巻『21世紀アジアの可能性』、第2巻『21世紀アジア学展望』を刊行します。また続刊を来春、新学部の設立と併せて発行します。

◆ 出  
版  
案  
内 ◆

## A・J リーフレット 創刊

アジア・日本研究センター第2回シンポジウム“アジアの動向と日本”での、太田博・元駐タイ大使の特別講演、三好正也・(株)エフエムジャパン会長兼社長、西倉一喜・(社)共同通信社 編集委員、梶原景昭・北海道大学教授によるパネルディスカッションの内容を収録した、A・J リーフレット第1号を近日発行する予定。今後、当センターの機関誌としてシンポジウム、講演会等の内容を所収します。

## ◆ 21世紀アジア学部 オープンキャンパス Asian Festa

◆ 事  
務  
局  
よ  
り ◆

来春予定されている「21世紀アジア学部」の開設を前に、7月22日(日)、国士舘大学世田谷キャンパスにてオープンキャンパスを開催した。テーマ“アジアン・フェスタ”のもと、アジアの美<ファッションショー>、アジアの音<ライブ By紫雨林>、アジアの文化<屋台・フリーマーケット・シネマ>など、多様なアジアを全面に打ち出したイベントを実施。

さらに、各界、各年代層からの多数の参加者を頂き、21世紀アジア学部の概要を紹介する特別講義「アジアを楽しむ・アジアを学ぶ」(青木保・政策研究大学院大学教授)や模擬講義などが開催された。

## 上海対外貿易学院訪問

6月11日から13日にかけて、西原春夫センター代表、三浦信行センター長、三浦宏一副センター長が上海を訪問し、上海対外貿易学院との共同プロジェクトとして、上海での研究会の開催と資料の提供体制の樹立、今後の中長期計画についても併せて検討を行った。

## 企画等のご報告

